

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程】
試験科目 【専門試験 禅学・仏教学一般】

【出題意図】

禅学・仏教学に関する基礎的かつ重要なテーマに基づき論述させ、さらに基礎概念や専門知識を個別に問うことで、受験者が広い視野で問題を構造化しつつ、細部の理解にも確実に到達しているかを測る。研究者として必要な「総合的思考力」と「基礎学力」の双方を確認することが出題の意図である。

【問題1】 下記の3題の中から1題を選択して論述しなさい。なお、選択した番号を、解答用紙の()内に明記すること。

1.江戸時代の黄檗宗の伝来と、その影響について論じなさい。

2.Jataka（本生譚）の仏教思想史上の意義について、具体的な内容に触れながら説明しなさい。

3.日本における幕末から明治期に生まれた宗教運動について複数の事例を挙げつつ、その歴史的変遷と特徴について論じなさい。その際、近世までのどのような宗教文化の影響を受けていたかについても述べなさい。

【問題2】 下記の12題の中から7題を選択し、それぞれ150字以内で説明しなさい。なお、選択した番号を、解答用紙の()内に明記すること(解答の順番は問題の順番どおりでなくても構いません)。

- ①拈花微笑 ②『宝慶記』 ③南浦紹明 ④看話禅
⑤「世間虚仮、唯仏是真」 ⑥具足戒 ⑦法蔵菩薩 ⑧『沙門不敬王者論』
⑨富士信仰 ⑩修道会 ⑪イスラームのハッジ（大巡礼） ⑫贈与論

【問題1】 1.江戸時代の黄檗宗の伝来と、その影響について論じなさい。

・解答例

黄檗宗は、江戸時代初期に中国明末清初の禅僧である隠元隆琦によって日本にもたらされた禅宗の一派である。隠元は明末清初の臨済宗の禅風を伝え、宇治に万福寺を開いて最新の中国禅を紹介した。それまで日本の禅宗は、宋代禅を基盤とする臨済宗と曹洞宗が中心であり、修行制度や儀礼は中世以来の形を保っていた。これに対し黄檗宗は、明末清初中国の清規や読経法をそのまま導入し、日本禅宗とは大きく異なる実践体系を示した。当初その新しさは大きな注目を集め、両宗派に強い影響を与えたが、結果として自宗の伝統を見直す契機ともなり、とくに曹洞宗では古規復古運動が進められた。また木魚の使用や警策による坐禅指導など、黄檗宗の作法は現在の日本禅宗にも広く定着している。このように黄檗宗の伝来は、日本禅宗に刺激と再編をもたらし、宗派意識の再確立に大きな

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

影響を与えたのである。さらに煎茶をはじめ、普茶料理、書、絵画、出版など多様な黄檗文化を伝えたことも注目される。

【問題1】 2.Jātaka（本生譚）の仏教思想史上の意義について、具体的な内容に触れながら説明しなさい。

・解答例

ジャータカ（本生譚）は、釈尊が成仏する以前の「前世での物語」を語る説話であり、布施や忍辱といった徳を積み重ねていく姿を物語として示すことで、釈尊が長い時間をかけて成仏へと至った過程を具体的に描き出している。こうした説話化によって、「六波羅蜜」（大乘仏教の修行者である菩薩が修めるべき六つの徳目）のような抽象的な教義が、日常的な行為として理解しやすくなり、民衆に仏教倫理を浸透させる役割を果たした。また、釈尊を無数の前世にわたり利他行を実践する「菩薩」として描くこと—たとえば「捨身飼虎」譚のように、自己の身体を犠牲にして他者を救う行為—は、菩薩とは何かという理想像を視覚的かつ感情的に示すものであった。このような物語的表現は、大乘仏教における菩薩思想の発展を促し、慈悲と自己犠牲を重んじる宗教的価値観の形成に大きく寄与した点で、仏教思想史上きわめて重要な意義をもつ。

【問題1】 3.日本における幕末から明治期に生まれた宗教運動について複数の事例を挙げつつ、その歴史的変遷と特徴について論じなさい。その際、近世までのどのような宗教文化の影響を受けていたかについても述べなさい。

・解答例

近世日本において国教的な立場にあったのは仏教であったが、近代に入ると、明治維新政は天皇を中心とした神道国教化政策を進めていった。そのため、近代は神道が国教化していくことになるが、民衆の宗教運動としても国家から公認を受けた教派神道十三派に代表されるように神道系の宗教運動が盛んになる。例えば実行教や丸山教は富士講を組織化した教団であり、木曾御嶽教は御嶽山への登拝講が基盤となったもので、いずれも山岳信仰が教団化したものである。それに対し、金光大神を教祖とする金光教や中山みきを教祖とする天理教はいずれもシャーマニスティックな宗教者が中心となった教団である。このような神道系の新宗教運動とは別に、日本のナショナリズムに呼応する形で宗教運動として大きな流れを生んだのは日蓮主義の法華系の仏教運動である。長松日扇の本門仏立講がその先駆的な教団だが、霊友会、立正佼成会、創価学会など数多くの教団が生まれていった。これらの教団は近世に里修験化した山伏の宗教文化や、口寄せや憑祈祷などの巫俗の文化などの影響を歴史的に受けている。

【問題2】 ①拈花微笑

釈尊が靈鷲山で花を拈じて示したところ、摩訶迦葉のみが微笑したという故事。これをもって釈尊は摩訶迦葉に正法眼蔵涅槃妙心（仏心）を相承した。言語を超えた悟りの直接伝達を象徴するもので、以心伝心を示す禅宗成立の根拠とされる代表的公案の一つである。

【問題2】 ②『宝慶記』

道元が入宋中に天童山で如浄に入室し、そこで交わした問答を記録した書。坐禅観や修行姿勢が具体的に示され、

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

道元思想形成を知るうえで不可欠な一次史料である。道元の死後に弟子の懐奘が遺品の中から発見し、これを懐奘が書き写したものが現存する。

【問題2】③南浦紹明

鎌倉時代の禅僧。入宋して虚堂智愚に参じ、南宋臨濟禅を日本へ本格的に伝えた。この法系は大徳寺・妙心寺へ展開し、後世臨濟宗の教学と修行体系の基盤を形成した。さらにこの系統から白隠慧鶴が出て、現在の臨濟宗・黄檗宗のすべてが白隠の系統に属する。

【問題2】④看話禅

「公案」（禅の課題）を意味内容として解釈せず、話頭として一点集中し、公案と一体化することで、意識の激発を起こし、思惟分別を超えて悟りに至る修行法。南宋の大慧宗杲により体系化され、日本では臨濟宗修行の中心的方法として継承・定着した。

【問題2】(⑤)「世間虚仮、唯仏是真」

「世間虚仮、唯仏是真」は、聖徳太子の死後に作られた「天寿国繡帳」にみられる聖徳太子の言葉で、すべては「無常」であり、権力や制度もはかないものと示した言葉である。だからこそ太子は、憲法十七条に見られるように仏法を政治の基準とし、為政者が私心を離れて衆議を重んじながら国を治めるべきだと考えた。この言葉は、太子の国家観を理解する上で重要な思想を表している。

【問題2】(⑥)具足戒

具足戒は、出家した僧尼が受ける戒律で、比丘は250戒、比丘尼は348戒を、三師七証の立会いの下で受戒する。これらの戒は、仏弟子としての生活を規制し、欲望や執着を離れて修行に専念するための具体的な行動規範となる。また、修行生活を清浄に保つとともに、僧団の秩序を維持し、悟りを目指す修行の基盤となる。

【問題2】(⑦)法蔵菩薩

法蔵菩薩は阿弥陀仏の前身で、『無量寿経』所載の四十八願を立てた菩薩である。特に第十八願で、念仏する全ての衆生が浄土に往生できるまで自らは成仏しないと誓い、長い修行の末に阿弥陀仏と成り、万人救済の願いを実現した。法蔵菩薩の誓願は、念仏による救済という浄土教の核心を形作り仏教史に大きな影響を与えた。

【問題2】(⑧)『沙門不敬王者論』

『沙門不敬王者論』は東晋の僧・慧遠が著した論書で、出家者（沙門）が国王に礼拝しない理由を理論的に示す。僧は戒律と仏法を最高の規範とするため世俗権力に従属しないと論じ、仏教が国家権力から自律性を保つ思想的根拠を提示した点で重要であるが、王権が弱体な東晋だからこそ可能な議論と指摘される。

【問題2】⑨富士信仰

日本の山岳信仰の一つで富士山への信仰を指す。日本最高峰の富士山は古代から信仰の対象となっていた。近世に入ると別火精進の期間が短縮され、民衆の登拝が盛んとなり、江戸には数多くの富士講が組織され、富士塚はそれ

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

を伝えている。有名な富士行者に食行身祿がおり、生まれ増しを説いた。

【問題2】⑩ 修道会

キリスト教の教会内に特定の使命のために結成された修道士たちの団体。主にカトリック教会の組織で、その起源は3、4世紀エジプトのナイル川近くの隠修士たちに遡れるが、6世紀にはイタリアのカッシーノに修道院を設けたベネディクトゥス、13世紀にはアッシジのフランチェスコらが創立した。

【問題2】⑪ イスラームのハッジ（大巡礼）

イスラームの宗教実践とされる五行の一つ。巡礼月に決められた方法で、マッカのカーバ神殿に参詣することを指す。一生に一度行うもので、ムハンマドが晩年に行った巡礼がモデルとなっている。聖モスク内にあるカーバ神殿を左周りに七周するタワーフ儀礼に始まり、ラクアの礼拝、サアイ儀礼、ウクーフ儀礼などからなる。

【問題2】⑫ 贈与論

文化人類学の議論的枠組みで「贈与」から文化を考察するもの。機能主義を提唱したマリノフスキーがトロブリヤント諸の人々のクラ貿易の中で交換されるソウラバとムワリを事例とし、マルセルモースはネイティブアメリカンのポトラッチを事例として、コミュニケーションのあり方について論じている。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程 】
試験科目 【 外国語試験 英語 】

【出題意図】

本試験問題は、仏教研究に必要な英語文献の読解力を測ることを目的としている。

設問1では、仏像の起源に関する文章を通じ、基本的な英文法・構文の把握力に加え、学術的な文脈を適切な日本語で表現する力を問うている。

設問2では、仏教經典の成立史（第一回結集）に関する基礎知識を前提としつつ、英文の内容を正確に理解する力を問うている。特に、仏教文献学において極めて基本的かつ重要な定型表現である "Thus have I heard"（如是我聞）についての知識を問うことで、大学院での専門的な研究に従事するための基礎教養の有無を確認する意図がある。

全体として、辞書的な意味の結合にとどまらず、仏教学の背景知識を用いて文脈に即した翻訳ができるかを評価の主眼としている。

【設問1】 次の英文をすべて日本語に訳しなさい。

(出典 Dobbins, James C. (2020), *Behold the Buddha: Religious Meanings of Japanese Buddhist Icons*, University of Hawai'i Press. p. 43.)

BCE = Before Common Era (紀元前)、figural images : 人物像、aniconic representations : 非人像的表現、"presence in his absence" 不在による存在感

【設問2】 次の英文をすべて日本語に訳しなさい。"Thus have I heard"の箇所は現代日本語訳とともに、漢訳經典でしばしば用いられる漢字4文字の表現でも記入しなさい。

(出典 Dobbins, James C. (2020), *Behold the Buddha: Religious Meanings of Japanese Buddhist Icons*, University of Hawai'i Press. p. 187.)

【設問1】

【解答例】

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

【評価のポイント】

文脈の理解: インド仏教美術における「無仏像時代」から「仏像誕生」への変遷に関する記述であることを正しく理解できているか。

専門用語の処理: stupa (仏塔/ストゥーパ)、Dharma wheel (法輪)、Nirvana (涅槃) などの仏教用語を適切に訳出できているか。

構文把握: 特に後半の "Most scholars have interpreted... most prominently, that..." の構造を把握し、「最も主要な理由は～ということである」と論理的に訳せているか。

【設問 2】

【解答例】

"Thus have I heard"の表現:

現代日本語訳: 「このように私は聞いた」 (または「私が聞いたところによれば、かくのごとし」等)

漢字4文字の表現: 「如是我聞」

【評価のポイント】

歴史的背景の理解: 仏滅後の「結集 (けつじゅう / First Buddhist Council)」と、口伝から経典成立へのプロセスを理解しているか。

固有名詞の知識: Śākyamuni (釈迦牟尼 / 釈尊)、Ānanda (アーナンダ / 阿難) を適切に表記できるか。

特定フレーズの知識: 設問の要求通り、経典の冒頭句 "Thus have I heard" を、現代語訳だけでなく、仏教漢文の定型句「如是我聞」として正しく回答できているか。(これがこの設問の重要な評価軸となる)

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門試験 小論文（外国人留学生） 】

【出題意図】

修士課程において仏教学や宗教学を学習・研究に相応しい知識を有しているかを問うため、小論文の形式で基本的な用語の解説を求める。ただし曹洞宗学・禅学、仏教学、宗教学など専攻を異にする者であっても答えられるよう、各分野から基本的な用語を選んで出題する。

【設問】下記の5題の中から3題を選択し、それぞれ300字以内で説明しなさい。なお、選択した番号を、解答用紙の()内に明記すること。(解答の番号は問題の順番どおりでなくてもかまいません)

- 1 四諦（四聖諦） ② 結集 ③ 菩薩 ④ 安居と行脚 ⑤ 聖地

〔1〕（四諦〈四聖諦〉）

初期仏教の中心的教義のひとつで、釈尊が鹿野苑で行った最初の説法の内容とされる。諦は真理の意味で、四諦は苦諦・集諦・滅諦・道諦からなる4種の真理。苦諦は迷いの生存は苦だという真理で、四苦八苦が挙げられる。集諦は苦の生起する原因についての真理で、その原因は渴愛とされる。滅諦とは苦の止滅についての真理であり、渴愛が完全に捨てられた状態。道諦は苦の止滅に到る道筋についての真理であり、正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定からなる八正道として示される。八正道は苦楽の中道とも説明される。集諦は苦諦の因、道諦は滅諦の因となり、苦諦は病状、集諦は病因、滅諦は病気の回復、道諦は治療にも喩えられる。

〔2〕（結集）

ブッダの教えを誦出し、互いの記憶を確認しながら、合議の上で聖典を編集すること。仏滅後数百年間、その教えは文字化されず、記憶により受け継がれたから、その散逸を防ぎ、教団の統一化をはかるために行われた。結集は第1回から第4回まで行われたとされる。第1回はブッダの滅後、王舎城に500人の比丘が集い、摩訶迦葉が座長となって行われ、阿難陀が経、優波離が律の編纂の中心的役割を果たした。第2回は仏滅後100年頃、戒律上の異議が生じ、700人の比丘が毘舍離に集い行われた。第3回は仏滅後200年頃阿育王の治世下、1000人に比丘が華氏城に集って行われた。第4回は紀元後200年頃、迦膩色迦王のもとでカシミールの比丘500人が集って行われた。ただし第3回と第4回については南伝と北伝で伝承を異にする。

〔3〕（菩薩）

菩薩は菩提薩埵の略、菩提はボーディ（覚りの智慧）、薩埵はサットヴァ（衆生・有情）の音訳であるとされ、覚有情などと意識される。もとは仏伝文学（ジャータカ・前生譚）において、成道以前の過去世における釈尊を指すことばであった。仏伝文学において菩提を求めて修行する過去世の釈尊が描かれ、修行に関するさまざまな概念が示された。部派仏教における菩薩の修行は釈迦牟尼仏のように特に優れたものだけが成し遂げられるものと考えられたが、大乘仏教においては過去世の釈尊と同様に菩提心を発し菩薩行を行うものはすべて成仏しうる者とされ、菩薩であると考えられた。さらに観音菩薩や文殊菩薩など高い境地にいる菩薩は衆生を救済するものとして信仰されるようになった。

〔4〕（安居と行脚）

安居は仏教教団で修行者たちが3ヶ月間1箇所集団生活し、外出を避けて修行に専念すること。インドで釈尊の時代から始まり、外出が不便な雨季に行われた。安居は中国や日本でも受け継がれ、特に禅宗では江湖会や結制と称されて厳格におこなわれた。夏安居を経た回数により法臘（僧侶になってからの年数）が定められた。インドでは雨季の夏安居が行われたが、日本の禅宗、特に曹洞宗では大乘の『梵網経』を根拠に冬安居も行われた。行脚は遍参等とも呼ばれ、特に禅宗の修行僧が良き師を求めて諸方を遍歴することをいう。一所に留まらずひとつの安居を終えると、次の安居までの間（解間〈げあい〉）に師を求めて旅をする修行形態が尊ばれた。

〔5〕（聖地）

神聖という観念と結びつけられ、区切られ、他の俗なるものとの分離され神聖視される場所。特定の場所を指定し、そこを中心に土地を囲い、

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

結界によって邪悪なものを排除することによって聖域が確定される。聖地は人間に神聖な力と接触する機会を提供し、新たな生の活力を与えると考えられる。また、個別の場所の神聖化であるだけでなく、ある土地を城壁によって囲って、そこに人が住みついて聖なる都市を形成し、祭礼を定めて暦をつくることにより、聖なる時間が規則化されて、社会秩序の形成をもたらす要因ともなる。仏教で言えば釈尊に関わる四大聖地（ルンビニー、ブッダガヤ、サールナート、クシナガラ）等が例示できる。

2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 仏教学研究科 仏教学専攻 修士課程 】
試験科目 【 外国語試験（外国人留学生） 英語 】

【出題意図】

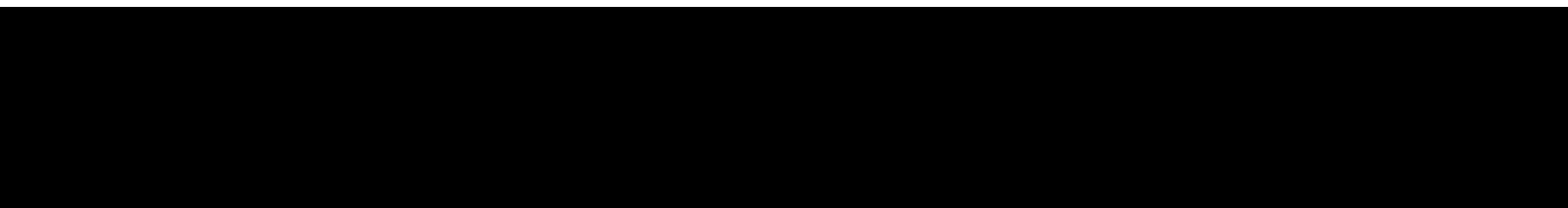
本試験問題は、仏教研究に必要な英語文献の読解力を測ることを目的としている。

設問1では、仏像の起源に関する文章を通じ、基本的な英文法・構文の把握力に加え、学術的な文脈を適切な日本語で表現する力を問うている。

設問2では、仏教経典の成立史（第一回結集）に関する基礎知識を前提としつつ、英文の内容を正確に理解する力を問うている。特に、仏教文献学において極めて基本的かつ重要な定型表現である "Thus have I heard"（如是我聞）についての知識を問うことで、大学院での専門的な研究に従事するための基礎教養の有無を確認する意図がある。

全体として、辞書的な意味の結合にとどまらず、仏教学の背景知識を用いて文脈に即した翻訳ができるかを評価の主眼としている。

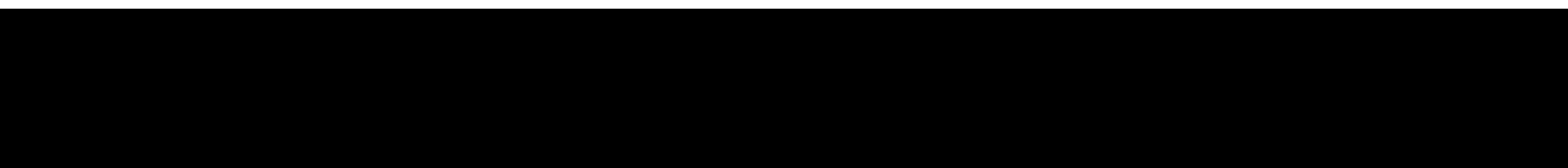
【設問1】 次の英文をすべて日本語に訳しなさい。



(出典 Dobbins, James C. (2020), *Behold the Buddha: Religious Meanings of Japanese Buddhist Icons*, University of Hawai'i Press. p. 43.)

BCE = Before Common Era (紀元前)、figural images : 人物像、aniconic representations : 非人像的表現、"presence in his absence" 不在による存在感

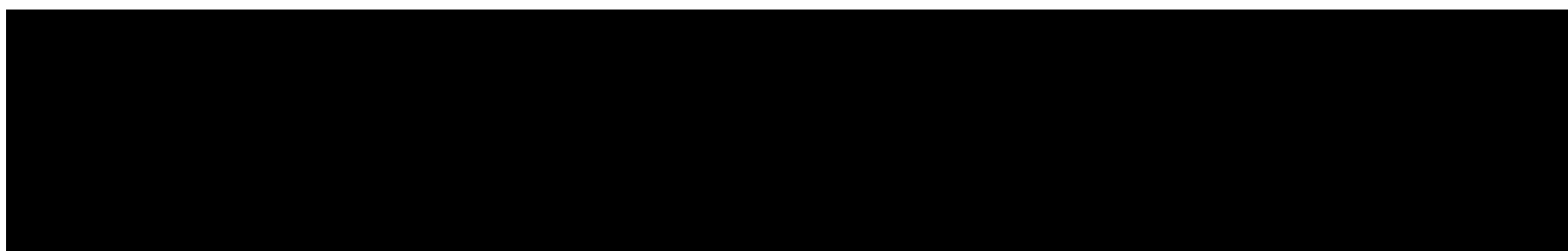
【設問2】 次の英文をすべて日本語に訳しなさい。"Thus have I heard"の箇所は現代日本語訳とともに、漢訳経典でしばしば用いられる漢字4文字の表現でも記入しなさい。



(出典 Dobbins, James C. (2020), *Behold the Buddha: Religious Meanings of Japanese Buddhist Icons*, University of Hawai'i Press. p. 187.)

【設問1】

【解答例】



2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

【評価のポイント】

文脈の理解: インド仏教美術における「無仏像時代」から「仏像誕生」への変遷に関する記述であることを正しく理解できているか。

専門用語の処理: stupa (仏塔/ストゥーパ)、Dharma wheel (法輪)、Nirvana (涅槃) などの仏教用語を適切に訳出できているか。

構文把握: 特に後半の "Most scholars have interpreted... most prominently, that..." の構造を把握し、「最も主要な理由は～ということである」と論理的に訳せているか。

【設問 2】

【解答例】

"Thus have I heard"の表現:

現代日本語訳: 「このように私は聞いた」(または「私が聞いたところによれば、かくのごとし」等)

漢字4文字の表現: 「如是我聞」

【評価のポイント】

歴史的背景の理解: 仏滅後の「結集(けつじゅう/First Buddhist Council)」と、口伝から経典成立へのプロセスを理解しているか。

固有名詞の知識: Śākyamuni (釈迦牟尼/釈尊)、Ānanda (アーナンダ/阿難) を適切に表記できるか。

特定フレーズの知識: 設問の要求通り、経典の冒頭句 "Thus have I heard" を、現代語訳だけでなく、仏教漢文の定型句「如是我聞」として正しく回答できているか。(これがこの設問の重要な評価軸となる)